



## 装飾古墳

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

### 1 装飾古墳とは

九州古墳文化の象徴とも言える「装飾古墳」と言えば、桂川町王塚古墳のように赤・黒・白・黄・緑などの顔料を使用した鮮やかな図文を石室一面に描いたものをまずは思い浮かべることでしょう。しかし装飾古墳には、このような彩色の他に、図文を石室の壁に刻んだ「線刻」、石などを使って石室の壁を敲き凹凸をつけた「敲打」、レリーフ状に浮き彫りされたものなど、様々な装飾方法があります。また図文を見ると、同心円文や三角文などの幾何学文と、武具・人・船・馬などの具象文という大きく2種類に分かれます。これらの図文を単独ないしは様々なパターンで組み合わせて描いた装飾は、被葬者を石室という閉じられた暗黒の空間から、死後の世界である「黄泉国」へ誘う重要な儀礼であったと考えられます。

九州を中心に分布する装飾古墳は2002年段階では鹿児島県を除く九州から山陰、香川県、近畿、関東、

東北南部にかけて670基余り確認されています。県内でも昨年2基新たに発見されていることから、今後さらに増加すると考えられます。

### 2 装飾古墳の出現

装飾古墳は4世紀後半に熊本県北部で出現しますが、80例余り確認されている県内の装飾古墳の内でも最も古いものは、5世紀前半の八女郡広川町石人山古墳の家形石棺に直弧文と同心円文を浮き彫りした装飾を持ったものです（左写真）。

その後5世紀後半～6世紀初頭に久留米市浦山古墳家形石棺や同市日輪寺古墳石室内の石障（右上写真）に同心円文・直弧文・鍵手文を刻むものが確認できます。

6世紀に入ると装飾古墳の内容は大きく変化し、王塚古墳のように石室全面に彩色を施した装飾古墳（彩色系）が出現します。

この彩色系装飾古墳で最も古いものは、県内では6世紀前半のうきは市日岡古墳です（右下写真）。



広川町石人山古墳（浮き彫り）



久留米市日輪寺古墳（石障系）



うきは市日岡古墳（彩色系）

この古墳では、石室一面に大型同心円文や三角文、<sup>わらびてもん</sup>蕨手文などの幾何学文や船・盾などの具象文を赤・青・緑・白の4色で彩色しています。複数の色を用いて彩色する技法自体は熊本県北部から伝わったものですが、県内でのみ認められる蕨手文や多様な具象文、またこれらを石室全体に装飾されている点など、熊本県北部の影響を受けつつも、装飾の受容に際して、日岡古墳の独自性が認められます。

### 3 装飾古墳の出現と展開

6世紀中頃には著名な王塚古墳が築かれます（写真左上）。王塚古墳の装飾は前室と後室2つの部屋からなる複室構造の石室全面がまず赤色で塗られ、その上に三角文・珠文・同心円文・<sup>そうきやくりんじょうもん</sup>双脚輪状文・<sup>ゆぎ</sup>鞞・<sup>たて</sup>盾・<sup>たち</sup>大刀・弓・騎馬人物の図文を赤・黒・白・黄・緑と装飾古墳の中で最も多い5色を使用し描いています。

6世紀後半になると、この彩色された装飾古墳は急激に増加します。その中心となったのは、王塚古墳のある遠賀川流域と県南部の八女地域、そして43基（消滅分も含む）と熊本県北部の菊池川流域と並び装飾古墳の密集地域となる筑後川流域でした。

筑後川流域では、それまで首長級の古墳にのみ認められた装飾が、比較的小規模な古墳にも描かれる一方、装飾のない同規模の古墳や古墳群もあります。

また図文構成において同心円文を主文様とすることはこの地域ではほぼ共通しますが、蕨手文や武具などの組み合わせが小地域ごとに異なります。

さらにうきは市<sup>めづらしづか</sup>珍敷塚古墳（写真左下）や鳥栖市<sup>たしるおおた</sup>田代太田古墳、筑紫野市<sup>ごろうやま</sup>五郎山古墳のように、幾何学文とともに「黄泉国」を表現したような物語性のある具象文も描かれています。このような具象文は6世紀後半の宮若市<sup>たけほら</sup>竹原古墳が著名であり（写真右上）、赤と黒の2色で石室奥壁には<sup>さしほ</sup>翳・波形文・船・馬・人物・竜？・三角文・船、前室の左右袖石には<sup>すざく</sup>朱雀・<sup>げんぶ</sup>玄武を描き、大陸の四神信仰などとの関連が指摘されています。このような具象的な構図は新たな大陸文化を受容することで生み出されたと考えられます。

これ以外の地域への装飾古墳の広がりは少なく、分布も極めて限定されていますが、昨年みやこ町<sup>あざみおおつか</sup>皆見大塚古墳で赤1色で描かれた放射状文様・三角文・同心円文の装飾が発見されました（右下写真）。

（学芸調査室 大庭孝夫）



桂川町王塚古墳（彩色系）



宮若市竹原古墳（彩色系）



うきは市珍敷塚古墳（彩色系）



みやこ町皆見大塚古墳（彩色系）



編集 発行：平成23年2月1日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>